

各学校や地域における地域学校協働活動の推進を目的に、地域と学校の連携・協働に関する情報を発信する連携協働通信「架け橋」を発行します。

将来像を明確にした学校運営協議会の設置

泉が丘中ブロック(泉が丘中学校、下和泉小学校、中和田南小学校)、 3か年計画での順次新規設置を実行中

例年、学校運営協議会の設置件数は、4月に比べ7月と10月は少なく、15～20校程度です。今年度はコロナへの対応のため、地域の会議が中止や延期となり、年度途中に設置予定を考えていた学校も延期をせざるを得ないところが多かったようです。

その様なコロナ禍の中で7月に唯一、下和泉小学校が学校運営協議会の新規設置をしました。

令和元年度・泉が丘中^済 令和2年度・下和泉小^済 令和3年度・中和田南小^{準備中}

泉が丘中学校ブロックでは、昨年7月にまず泉が丘中学校が単独で学校運営協議会を設置しました。泉が丘中学校の学校運営協議会設置のねらいは、「学校、家庭、地域が連携した学校の運営改善」というもので、小中一貫教育の推進も視野に入れたものでした。

この時ゆくゆく小中ブロックで合同の学校運営協議会となることを想定して、委員の選定も2小学校に関係する方を加えるといった、先を見通した設置をしていました。

学校や地域の実態に応じた柔軟な学校運営協議会の在り方

昨年度の段階で、合同の協議会を設置しなかったのは、各学校や地域の実態を考えてのことでした。ブロック内で中学校が先行し、その後2つの小学校に設置していくことが、学校や地域にも負担が少ないと考えた結果でした。さらに、中学校にできたことで、今後小学校にも同じような学校運営協議会が設置されることが、地域にも十分周知され準備にじっくり取り組むことができました。

今年7月に設置したばかりの下和泉小学校では、7月10日に第1回の協議会を開催しました。その席上、学校再開後の様子や、学校や地域の行事の変更について協議され、新しい生活様式の中での学校生活を地域の方を交えて確かめていったそうです。

令和3年度、中和田南小学校に設置された後は、合同の学校運営協議会に移行する予定です。その時の協議会には3校の部会をとおいて、個々の学校に特化した支援が確実に行われるように計画されています。

現在、学校運営協議会の未設置校は、設置の際の参考にしてはいかがでしょうか。

コロナ禍の中での学校運営協議会

学校休校時に、力を発揮。 学校を助けることができた！

学校が休校となった令和2年4月、5月、感染症拡大防止の措置として学校運営協議会を開催することができませんでした。

しかし、その期間中にも学校運営協議会がしっかりと機能を果たし、学校を助けることができたという事例がありましたので紹介いたします。

I小学校…校長と学校運営協議会会長が電話にて、学校再開後の年間予定や行事の日程変更等について打合せた。会長が各町内会や諸団体とも調整を行い、校長は、町内会や諸団体と連絡を取る必要がなかった。

U中ブロック…学校運営協議会委員が関わっているボランティアが、環境整備（花壇や畑の手入れ、砂を入れた校庭の整地等）を行った。6月以降の分散登校に対応する登下校の見守り体制への準備も進めた。

H中ブロック…第1回目の協議会は4月中に書面で行い、第2回目（5月26日）をWeb会議形式で実施した。情報交換をするとともに、再開後の学校生活について地域からの多くの質問に答えることができた。Web形式での開催の可能性が見えた。

「放課後学び場事業」の活用

前号でもお知らせいたしました。子どもたちの学びの保障の一助となるように、「放課後学び場事業」の実施校を引き続き募集しています。また、すでに申請をしている学校につきましては、不足している必要経費の追加申請を可能としています。

○新規申請の場合も追加申請の場合も、子どもたちへの学習支援を充実させるために、今年度は上限額を設定しません。事業に必要な金額を計上して申請してください。

○特に中学校におかれましては、卒業を控える3年生の学びの充実のためにも、活用に向けてご検討をぜひお願いいたします。定期テスト前、長期休業中等の不定期での実施も可能です。

詳しくは令和2年6月17日教学第449号の「令和2年度放課後学び場事業 実施校の新たな募集について（通知）」をご確認ください。



現在も
さらに受付中です!!

高等学校における地域学校協働活動

横浜市立の高等学校で唯一、学校・地域コーディネーターが活動している戸塚高校で、8月に「戸高学び塾」という地域学校協働活動が行われましたので、ご紹介します。

「戸高学び塾」は毎年行われていますが、今年のテーマは“学校・地域の防災を考える”、はじめに講師の方からお話を聞き、その後、生徒と地域の方が一緒になったグループワーク、最後に意見交換という流れでした。講師の方は、東日本大震災の時に地元の中学校で防災教育を担当していた方でした。その方のお話をもとにしたグループワークや意見交換では、学校や地域は事前防災や災害発生時にどう取り組むべきか、立場をこえて活発な意見が交わされました。高校生がリーダーとなってグループの意見をまとめ、積極的に意見交換をしている様子は、非常時の地域の担い手として、とても頼もしかったです。



参加人数を制限して、密になることを防ぎました。

グループワークは、高校生がコーディネートしました。



<高校生より>

釜石市の実際の例とともに、いざ災害がおきたときに、どうすればよいかがよく分かりました。助けられる人から助ける人へという言葉がとても印象に残りました。日頃の生活から、自分で考えて行動できる人になりたいです。また、ハザードマップや避難所など、防災に関わることは興味をもって調べたいです。

<地域の方より>

今日は実際に地震を体験した方の話を聞き、小3男子の行動に感心しました。家族でそれぞれ行動することを守り、えらいと思いました。高校生が防災に対して、強く関心をもってきてくれて、とても良い事だと思いました。助けられる方から助ける方におっしゃっていて、すごく頼もしい生徒さんだと感じました。

☆教職員の方々だけでなく、学校・地域コーディネーターや地域協力者の
方々にも、ぜひ周知をお願いします！！